

千住金属工業(株)本社ビルの一画にある石洞美術館の館内はクレーを基調としたシックな空間で、スロープで1階と2階の展示室をつないだ作りになっています。

Topics

公益財団法人 美術工芸振興佐藤基金

人々の「こころ」にはたらしきかけ、幸福につながるもの。言葉の違いをこえ、国際的な相互理解を深めるもの。美術工芸にはその力がある…名誉会長・佐藤千壽のそんな思いによって、財団法人美術工芸振興佐藤基金は1979年に設立されました。設立以来、分野や国内外を問わない美術工芸に対する研究・創作への助成、地域に根差した美術館運営、工芸作家への支援などで美術工芸文化を支え、広めることに注力してきました。そんな財団45年のあゆみをご紹介します。

設立：1979年5月

※2012年に公益財団法人として認定

- 美術工芸の調査研究および創作活動の奨励・助成・表彰
- 美術工芸品およびその関連資料の収集公開
- 国際間の文化交流、相互理解の促進および文化の向上

助成事業

Since 1980

国際間の文化交流と相互理解の促進、我が国の文化向上を目的に設立された財団は、美術工芸の調査研究・普及活動や創作活動など、工芸のさまざまな分野に対して助成を行っています。

いにしへの工芸技法の調査・再現や新しい技術の開発の助成、展示会やシンポジウムへの協賛、工芸品の図録制作や復元費用の補助など、幅広い支援で美術工芸文化の発展を支えています。

若手金工作家奨励 淡水翁賞

たんすいおうしょう

Since 1983

当財団は千住金属工業を母体としていることから、特に金属工芸への支援に力を入れてきました。その一環として、若手の金工作家を奨励するために当財団が1983年に創立したのが淡水翁賞です。若手金工作家の登竜門として、またジャンルを問わず金属を用いて作品を制作する作家に与えられるユニークな賞として、注目される存在です。



伝統工芸日本金工展

Since 2012

伝統工芸日本金工展は、日本古来の鋳金、鍛金、彫金などの金属工芸の保存と発展を願い、現在の生活に則して創作された作品を募り、広く一般の方々に鑑賞していただくとともに批評を仰ぐことを目的とした、1970年から続く歴史ある展覧会です。当財団は2012年の第41回から日本工芸会とともに主催に名を連ねており、石洞美術館は開催会場の一つとなっています。



文部科学大臣賞
紫銅盛器「吹」/松本育祥

石洞美術館賞
象嵌花器「架」/村上浩堂

東京都教育委員会賞
Halloweenの釜/般若佐伎

能登半島地震における伝統工芸作家への支援

In 2024

2024年1月に発生した能登半島地震は、さまざまな工芸文化が残る能登地方に甚大な被害をもたらしました。生活の復興もままならない状況が続けば、伝統技術の存続が危うい…そんな声を受け、日本工芸会石川支部を通じて伝統工芸の保護、技術継承のための義援金を担い手の方々に送りました。これからも能登地方に根付いた伝統工芸を守るための支援を続けていきます。



石洞美術館

Since 2006

石洞(せきどう)美術館は、2006年4月に千住金属工業の本社社屋の一画に開館しました。所蔵品は創建者佐藤千壽の収集品を核としており、美術館の名称は佐藤の雅号「石洞」に由来しています。展示室は車椅子で来場された方でも楽に移動できるようゆったりとしたスペースを取っています。世界各地のやきもの、茶の湯釜、仏像、漆器、青銅器などを中心に、企画展を定期的開催しています。



コンサートinミュージアム

地域5カ所の文化施設でコンサートやパフォーマンスをお届けする「コンサートinミュージアム」(主催:公益財団法人足立区生涯学習振興公社)に石洞美術館も参加しています。石洞美術館では美術作品とともに音楽を楽しめるとあって、人気を博しています。



石洞美術館
SEKIDO MUSEUM OF ART

所在地 : 東京都足立区千住橋戸町23番地
開館時間 : 展覧会開催中の午前10:00~午後5:00(入館は午後4:30まで)
入館料 : 大人500円 学生300円
※小学生以下(要引率者)、65歳以上、障がい者手帳をお持ちの方は無料
休館日 : 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日休館)